

公益社団法人インテリア産業協会 平成29年度の調査・研究活動助成

インテリアワークショップを通して
暮らしの楽しさを子どもたちに伝えるための
教育現場への普及についての研究

調査・研究活動報告書

KIWIlabo.

久保栄子、野路智美、瀬口正美、土谷尚子、水田恵子

2018/3/31

目次

第1章 研究の概要

1 - 1 . 調査・研究の背景

1 - 2 . 調査・研究の目的

1 - 3 . 調査・研究報告書の概要

第2章 インテリアワークショップについての整理と考察

2 - 1 . KIWilabo.の概要

2 - 2 . 「インテリアボードづくり」ワークショップについて

2 - 3 . 「インテリアアートフレーム」ワークショップについて

2 - 4 . 「切り絵コースター」ワークショップについて

2 - 5 . 「ケーキ箱のお部屋づくり」ワークショップについて

第3章 ワークショップの取り組みのまとめ

3 - 1 . 各都道府県IC協会及び各個別IC開催のワークショップの取り組み

3 - 2 . KIWilabo.開催のワークショップの取り組み

3 - 3 . 愛知淑徳大学での取り組み

3 - 4 . ジャパンテックスでのPR活動について

第4章 報告会の様子

4 - 1 . 研究報告会でのディスカッション内容及びアンケートについてのまとめ

4 - 2 . 全国のIC協会に浸透するための手法についての整理

4 - 3 . 学校教育への普及についての整理

4 - 4 . まとめ

第5章 結論

第 1 章 研究の概要

1 - 1 . 調査・ 研究の背景

(1) 統計データから見るインテリアコーディネーターとして考えるべきこと

住宅・ 土地統計調査 (総務省) によると、平成 25 年 10 月 1 日現在の総住宅数は 6063 万戸、うち空き家は 820 万戸で、空き家率は 13.5% で過去最高とされている。今後、住宅建築は、少子化に伴い減少していくことを視野に入れると、住宅は、継続的に、中古住宅として再利用されることが推奨される。耐震性や設備など住宅の性能をあげるだけでなく、間取りや内装、家具や調度品 (インテリア) を、自分の好みやライフスタイルに合わせて整えることで、精神的にもより豊かになり、自己実現や自己肯定感を得られる。そしてそれが満足度、幸福感の高い暮らしにつながっていくと言える。ただ、そのことを理解している生活者は決して多数ではなく、インテリアコーディネーターとして、そのことをもっと多くの人に伝えていきたいと考えている。

(2) 学校教育及び先行研究から見る今後の住教育について

住教育に関して言及すると、現状の学校教育における住分野は、家庭科の中の一部に含まれている。家庭科の教員は、先行研究 1) によると、食分野及び衣分野出身が多く、住分野は苦手としている傾向にある。また、家庭科の授業時間の減少や指導範囲の増加に伴い、住分野の授業時間数は減少傾向にある。しかしながら、平成 26 年全国消費実態調査によると、ライフステージにより支出割合が大きく変わる費目がある。それが、第 1 ステージ (結婚後第 1 子出産前まで) において、「住居」の割合 (16.9%) が他のステージと比較して高く、

第2ステージ(第2子の出産後)でも、その傾向は続いているというものである。この結果から見ると、住居に関する支出が増えるのは、比較的若い世代だと言えるのであるが、実際に住居のことを学ぶ機会は非常に少なく、一部の書籍や雑誌等から学ぶしかないのが現状ではないだろうか。子どもに少くとも住まいやインテリアに関する興味や関心を高める機会が必要ではないだろうかと考えている。

(3) 日常生活に意識を向けることに対する考え

平成27年版情報通信白書(総務省)によると最近約1年以内にFacebookを利用した割合は、35.3%であり、年代別に利用率をみると、20代以下で約5割の人が利用している。旅行や遊覧の様子、外食など、非日常的な投稿が目立ち、「写真映え」といわれる言葉の通り、毎日の生活や日常というよりも、写真映えを重視する傾向にあると言えよう。しかし、毎日の暮らしや生活といった日常の中にも、楽しみや生活が豊かになることがあり、日常に目を向けるといった視点を持つことがあってもいいのではないか。日常を大切にしながら、非日常が存在するようなハレとケを意識した暮らし方に、今一度目を向けてほしいと考えている。

また、昨今、災害が増え、住まいやインテリアにこだわっても、一瞬のうちに奪われてしまうといった刹那的な考えが増えていくことを懸念している。今を大切に、今を豊かに人々が暮らす社会を実現するために、子どもからインテリアや暮らしへの関心を高めることは、社会の豊かさに通じていくものと考えている。

1 - 2 . 調査・ 研究の目的

< 目的 >

中古・ 空き家に関する課題、住教育の問題点、さらには、若年世代の暮らしへの関心度、災害における利
他的な思考などの背景を踏まえ、本研究に取り組む理由を整理する。KIWIlabo.では、子どもを対象としたイ
ンテリアワークショップ並びに付随する研究 2)、 3)を行っている。5年前から取り組み、力を入れている
のが、ケーキの箱の中にミニチュアの部屋をつくるワークショップである。このワークショップの有効性をも
っと高めていきたいと考えている。アイデア次第で自分の好きなように部屋を想像することができるこのワー
クショップを通じて、子どもにも自由な発想で住まいづくりを楽しむという体験をしてもらい、将来の住まい
づくりにも身近で楽しいものというイメージを持ってもらいたい。それが、これからの住宅の質の向上や、イ
ンテリア業界の繁栄につながるのではないだろうか。

インテリアワークショップは、インテリアコーディネーターの横のつながりから、現在、全国にひろまりつ
つあり、その効用をあらためて調査し、今後、小学校の教育現場への普及を目指していくにあたって、必要な
こと何かを追及し、学習プログラムとして確立したいと考えている。

本研究では、インテリアワークショップについての有効性を高め、全国の IC 協会に浸透するための手法に
ついて整理し、さらには、学校教育へと普及することで、子どもたちの住教育として確立することを目的とす
る。

<想定する、調査・研究の成果(成果物、成果活動)とその具体的活用先>

本研究では、ワークショップ参加者及び主催者の声をまとめ、その意義を再確認すると共に、改善点について考察し、よりよいプログラムとして完成させる礎としたい。成果物としては、主にアンケート結果の分析に基づいて、今後の方針を固めた資料となる。その資料を活用し、この取り組みを全国的な活動へと広げ、ひいてはインテリアコーディネーターが学校教育機関で出前授業を実施できるようなものになりたいと考えている。

<成果を公開することによる期待される効果>

一般生活者に向けては、こういったインテリアのワークショップがあるということを認知してもらい、開催される際は、積極的に参加したいと思ってもらえるようにしたい。またインテリアコーディネーターに向けては、このインテリアワークショップを自由に使ってもらい、さらに全国へ広がるよう期待したい。学校教育関係者に対しては、教育現場にインテリアコーディネーターが参画できるような出前授業といった取り組みへの道筋を明確にしたい。

<テーマの目的や結果(成果物、成果活動)が公益性を有する説明>

子どもへの教育により、住まいの大切さから家庭の大切さにいたるまで考え始めるきっかけになると考える。さらに、子どもへの教育と付随するように、大人への教育にもつながり、相乗効果を得ることができると考えている。

インテリアを整えることの重要性が浸透し、より豊かな暮らしをしたいという一般生活者が増えることで、

新築需要もリフォーム需要も増え、インテリア、建築業界の活性化につながると考える。

1 - 3 . 調査・研究活動報告書の概要

第1章 研究の概要

調査・研究の背景と目的、報告書の概要についてまとめる。

第2章 インテリアワークショップについての整理と考察

KIWIlabo.として現在まで行ってきたインテリアワークショップについて、手法をはじめ、

参加者の声などを整理し、ワークショップでの効果などについて考察する。

第3章 各都道府県IC協会及び各個別ICによるワークショップ開催のまとめ

3年ほど前から広がりつつあるKIWIlabo.以外での開催についての事例をまとめる。また、

手法についての伝達やツールなどの共有について言及する。

本年開催のワークショップについて、参加者に対するアンケート調査を実施した。参加す

る前と後でインテリアに対する意識に変化が生じたか、子どもたちの様子などについての
内容で実施した。また、開催側へのアンケートにより、開催する際のメリットとデメリット
トまた改善点や工夫している点などについてヒヤリングを行った。それらを整理、分析し、
今後の学習プログラムとしての確立について考察を行った。

第4章 本研究事業についての報告会開催について

調査に関する結果と分析したことについての発表を行い、参加者の方にケーキ箱のお部屋
つくりのショー ト版を体験してもらう。その後、ケーキ箱のお部屋つくりに対する意見・検討事
項等を聞き、今後の参加 とする。

第5章 結論

第2、3、4章についての調査及び研究をもとに、インテリアワークショップについての
有効性を高め、全国のIC協会に浸透するための手法について整理し、さらには、学校教育
へと普及することで、子どもたちの住教育として確立できるよう、分析しまとめる。
また、開催した研究報告会でのディスカッションで得られた内容やアンケート調査の内容
について整理、分析し、考察を行い、結論としてまとめる。

<参考文献>

- 1) 正岡さち・高嶋智恵：小学生の住意識と住教育に対する意識、島根大学教育学部紀要 教育科学・人文・

社会科学・自然科学 44、2010

2) 土谷尚子・碓田智子：若年世代が持つインテリアのメージと自宅のインテリア状況 大学生を対象とした

アンケート調査から、日本建築学会近畿支部研究報告集 56、2016

3) 土谷尚子・碓田智子：インテリア学習のための子ども向け教材及びプログラムの実践研究、日本建築学会

近畿支部研究報告集 57、2017

第2章 インテリアワークショップについての整理と考察

2 - 1 . KIWIlabo.の活動目的と概要

構成メンバーは、4名のインテリアコーディネーターと1名のおもちゃコンサルタント。



「家族と暮らしを考える」をテーマに、ワークショップ開催や研究活動を通じて、子ども、子育て層、高齢者を含む、家族の暮らしを豊かにするための啓もう活動を行う。家族が健康で幸福に暮らすための、家やインテリアのあり方を研究し、伝えることを目的として活動するユニットである。

<ワークショップ・セミナー開催経験(今年度のケーキ箱WSをのぞく)>

2007年11月 インテリアボードづくり(ハウジング住宅展示場)

2008年3月 建て替え相談会(住宅展示場)

2008年10月 インテリアボードワークショップ(ACCJウォーカーソンチャリティイベント)

- 2008年10月 キッチンセミナー（新築マンション展示場）
- 2009年2月 「新生活の住まいを考えるWS考えよう！2人の暮らしとインテリア」（大阪市住まい情報センター）
- 2009年2月 「子どもの感性を引き出す未来空間ボード作り」（デザイナーズショーハウスイン横浜）
- 2009年5月 インテリアボードワークショップ（滋賀県マンションギャラリー）
- 2009年7月 キッズインテリアデザイナープログラム（ラマダホテル大阪）
- 2009年8月 キッズインテリアデザイナープログラム（ホテルセトレ舞子）
- 2009年8月 遊びの広場 切り絵コースター（大阪市子育ていろいろな相談センター）
- 2009年8月 キッズインテリアデザイナー体験（くらむぼんサロン）
- 2009年10月 手作りウォールデコレーション！親子でオリジナルフレームを作ろう（IKEA）
- 2010年10月 キッズプログラム ケーキ箱のお部屋づくりワークショップ
- 2011年11月 K I W I マーケット 2011 「子どもとの暮らしを楽しむ」（クレオ大阪東）
- 2012年1月 ケーキ箱でつくるマイルーム（大阪市住まい情報センター タイアップ事業）
- 2013年3月 インテリアアートフレーム（子育てママ応援！北摂 Sweets & Women フェスタ豊中）
- 2013年8月 インテリアアートフレーム（笑顔で働きたいママのフェスタ 2013 大丸心齋橋店）
- 2016年8月 インテリア模型クラフト講座～インテリアでできる地震対策を学ぼう（大阪市住まい情報センター）
- 2016年11月 インテリア模型クラフト講座～インテリアでできる地震対策を学ぼう（京安心すまいセンター）

- 2016年12月 WELCOME TO CRAFT LIFE 親子イベント「CAKE BOX でインテリア模型をつくろう」
- 2016年12月 インテリア模型クラフト講座イ～インテリアでできる地震対策を学ぼう（神戸すまいるネット）
- 2017年11月 インテリアアートフレームワークショップ（大阪大正・小川文化祭）

2 - 2 . 「インテリアボードづくり」ワークショップについて

お客様自身で、自分の好みのインテリアを見つけてもらうワークショップ。

雑誌やカタログ、壁紙、カーテン生地などを使って、インテリアボードを製作してもらうもの。とても人気の

あおるコンテンツである。



2 - 3 . 「インテリアアートフレーム」ワークショップについて

フォトフレームの中に、自分だけのオリジナルのアートを製作してもらうワークショップ。

壁紙やカーテン生地などの端材を使って、自分の好みのテーマでアートを製作。

本物の材料を使用するため、触った感触などを体験してもらえます。短時間で完成するので、イベントなどでも開催しやすい内容である。



2 - 4 . 「切り絵コースター」ワークショップについて

「紋切型」の技術を使って切り絵をしてもらい、それをコースターに貼って仕上げるクラフト。

折り紙を折りたたんではさみで切る楽しさや厚みのある紙を切る感覚を体験できる。折り紙を広げる時の驚き、コースターに貼ってくらしの中で使えることなどを経験してもらすることができる。



2 - 5 . 「ケーキ箱のお部屋づくり」ワークショップについて

様々なワークショップを行ううちにより具体的に関心と興味を抱けるようにと誕生したのが、ケーキ箱を利用したワークショップである。

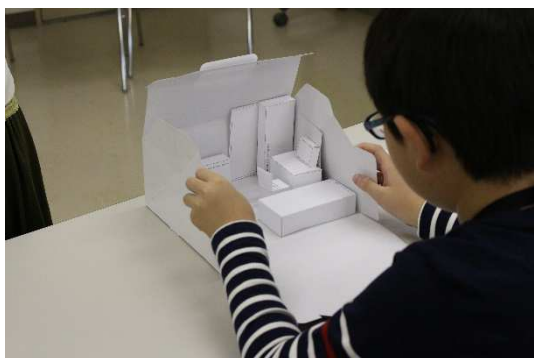
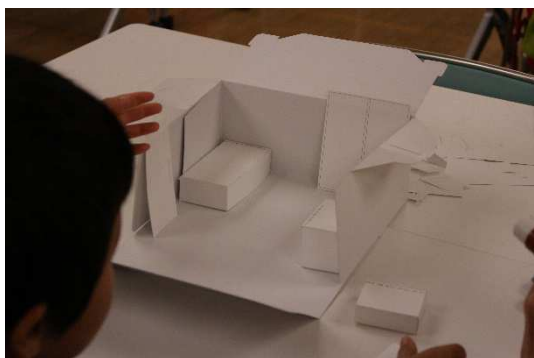
ケーキの箱を部屋に見立てて、簡単に立体の部屋を創ることができるワークショップ。中に使用する素材はできるだけ本物を使うことが KIWI labo.のポリシーである。付き添いの保護者にはできる限り口を出さないようお願いし、子どもの自由な発想をそのまま形にできるようにサポートしている。

出来上がった作品は一人ずつ発表してもらおうようにしているが、講座の初めはモジモジとしていた子ども、完成した自分の作品について語る時には皆とても誇らしげで、堂々としている。その姿にいつも驚かされる。





はじめたころは、ただ作って楽しいというところを伝えていたが、ケーキ箱の大きさを6畳程度になるよう縮尺を調整し、家具の展開図も縮尺を合わせて修正した、そのことにより、動線計画や地震対策などと組み合わせることができるコンテンツにまで成長した。



KIWIlabo.で考案し開催していたプログラムが、各県 IC 協会の取り組みに発展し、各地で行われるようになった今、親子で競作するなど、それぞれのアレンジは自由にしてもらいながらも、『保護者に口出しをさせない』『本物を使う』『子どもたちの自主性を大事にする』といったメソッドを受け継いでもらっている。各地でいい評価をしてもらい、毎年開催してくれる団体もあり、今後ますます広がっていけばと思っている。

第3章 ワークショップの取り組みのまとめ

3 - 1 . 各都道府県 I C 協会及び各個別 I C 開催のワークショップの取り組み

本年は、大分インテリアコーディネーター協会、みやざきインテリアコーディネーター協会、福井インテリアコーディネーター協会、三菱地所社内福利厚生企画、水田恵子個人において行われた。

特に、三菱地所コミュニティ株式会社では、福利厚生企画として行われた。昨年度の「インテリア模型クラフト インテリアでできる地震対策」講座に参加された方からのご連絡で、KIWIlabo.から材料やプログラムなどのノウハウを提供する形とし、新しい試みであった。

【主催者アンケート項目】

1 . 学校教育現場への普及について

こどものうちから、インテリア、住まいに関心を高めるために、インテリアワークショップを学校現場に普及したいと考えていますが、学校教育現場に取り入れることは意義があると思いますか。

意義がある あまり意義はない

2. ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を学校教育現場に取り入れた場合、どのような意義があると思いますか。

3. 他に子ども向けのインテリアについてのワークショップやイベントを行っていることがあれば具体的にお書きください。

4. ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を通して、インテリア、住まいの関心は高まると思いますか。

とても高まる あまり高まらない

その理由をお書きください。

5. その他ご意見等ございましたらお書きください。

【主催者アンケートより抜粋】（11名回収）

1. 学校教育現場への普及について

意義がある：11名

あまり意義はない：0名

2. ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を学校教育現場に取り入れた場合、どのような意義があると思

いますか。

- ・ インテリア材の現物を手に取ることができるというメリットが大きいと思います。現物に触れることで、自分の家のインテリアに興味を持ち始めることができると思います。この意義は大きいと思います。また、子どもがワークショップの内容を自宅に持ち帰り、大人にもインテリアの楽しさが伝わっていくと思います。
- ・ 住環境に対しての関心が生まれると思う。「ケーキ箱のお部屋づくり」の際、自分の家がこうだから～と

言っていたお子様の言動を通し、自分の住む家を思い返すことなど、まずは身近なところから興味を持つ
うとする姿勢が生まれるのでは。

- ・ インテリア、家への興味がわく。学校、校舎、空間に対して愛着をもつ。住宅、建築に関わる仕事につきたいと思う子どもが増える。
- ・ 現在、学校教育の現場においてインテリア分野のものがあまり無いと思うので、普及することで子どもたちの視野が広がると思う。
- ・ インテリアコーディネーターという仕事への関心を幼い頃から持ってもらえる事のきっかけになる。また、住まいへの関心を持つきっかけとなり、子どもの目線からの住まい造りを親御さん達が始めて頂ける動きが出て来ることを期待したいです。
- ・ 自分の身の回りを気にしたり、部屋を整理したり掃除などに気を付けるようになるきっかけになると思うので。
- ・ 建築・インテリア、また自分の生活に興味を持つことができるきっかけとなると思う。
- ・ 「部屋」という自分の日常の生活空間を自分の好きなように創造することは、楽しいことであり、それにより実際の生活空間を見直すことができ、ひいては実際に快適な部屋にしようという意識が現れるかもしれない。また、全体のバランスを考えてコーディネートする力が具わるとおもう。
- ・ 部屋を彩るという感性が育つ。
- ・ 住まい、暮らしという観点に出会える。
- ・ 目の前にある材料をどう使うかという考える力や発想力が身につく。
- ・ 子どものうちにインテリアについて考える時間を持つと、建築、デザイン、家具などにも波及して職業に

についても考える幅が広がる。

- ・ 他のおともだちの作品の感性にも影響を受けることができる。

(考察)

学校教育現場にこのワークショップを取り入れた場合、インテリアに興味を持ってもらうきっかけになるという声が大抵。また、インテリアを考えることは、自分の生活や暮らしに目を向けることであり、その大切さについて書かれた回答も多かった。現状での教育現場で不足しがちな分野だと思う。また、インテリアコーディネーターや建築にかかわる仕事につきたい子どもが増える、という声もあった。

この講座は、受け身の授業とは違い、自分で考え、アイデアをまとめ、手を動かして創造するという主体的な内容であり、講座を通して、自分でさまざまなことに気づいてもらうことが何よりも大切と考える。

3 .他にこども向けのインテリアについてのワークショップやイベントを行っていることがあれば具体的にお書きください。

- ・ 親子一緒のワークショップとして、ガーランド作りをやったことがある。
- ・ 当協会では現在、ケーキ箱のお部屋作りしか行っていません。来年度の企画では、親子セミナーという形でお部屋作りのワークショップを開催する予定です。親子 各々がお互いの意見や目線で語り合いながら作りあげて行ってくれるセミナーになればと思っています。

4 .ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を通して、インテリア、住まいの関心は高まると思いますか。

とても高まる：11名

その理由をお書きください。

- ・ 個人差はあると思うが、少なくとも**関心を持つと**する機会を与えることができると思う。身の回りやこれまでに見たもの等を、改めて思い起こすきっかけづくりでもあり、加えて、この体験が楽しいものであったならば、今後、インテリアや住まいに触れることに、**関心も高まるのではない**かと思う。
- ・ これまで「生きるベース」となる部屋に関して**子どもが考える機会があまりに少なかった**。小さな箱でも、幼いころに本物の資材に触れ、部屋を自由に作れることは部屋と自分の気分とが関係あると知ったり、自分で決めていいということで自由な発想ができたり**によりインテリアが楽しい**ということを感じる最初の一步になると思う。
- ・ お子さんの個性ややる気が出て**インテリアへの興味がわく**ので。
- ・ 普段、子どもたちがインテリアを目にするのは自宅や親族・友達の住まいか、人形やアニメの世界などかと思われる。現実に触れて考える機会は貴重で、**よりインテリアを身近な物**になると思う。
- ・ 飾り付けの楽しさや、**コーディネート**の楽しさを知ることができる。
- ・ 実際、当協会で同様の企画を行ってきた際、お子様達と会話を交わしてみると、**こんな部屋にしたい**という意見が沢山聞けました。また、実際、元々関心が高かったお子様が参加して頂いている場合も多いのですが、親御さんに自分の意見や感性を分かってもらいきっかけとなっていると感じられました。
- ・ 自分の理想の部屋を考えると**現在の自分の部屋とのギャップ**など感じるとおもう。そういう時に将来は**こんな空間を作りたい**という**新たな希望や欲求**が生まれそれが家の全体像に広がると思うから。

- ・ 誰しも家や部屋には希望・夢を持っているので、「ケーキ箱～」のワークショップは、インテリアや住まいの関心をより高め、何かしら住まい方のヒントを与えることができると思う。
- ・ 自分で設えを考えることにより、普段いろいろな場所(お店やテレビ、他の家など)で見るインテリアにも興味がわく
- ・ 自分の部屋をどうしたいのか考えるようになる

(考察)

身の回りや経験を改めて思い起こし、本物の素材に触れながら自由に発想し、それを形にしていく。飾る楽しさ、こんな部屋にしたいという思いの表現など、この講座を通して、たくさんの主体的な経験を子どもたちにしてもらうことができるという事に、改めて気が付いた。

5 . その他ご意見等ございましたらお書きください。

- ・ ワークショップの手法を公開していただき、ありがとうございました。各県でそれぞれに進化していったとお聞きしています。徳島でも、ゆっくりと進化していければと思います。ありがとうございました。
- ・ ワークショップをして、大人も夢中になっていた。工務店やハウスメーカーの決められた物しかなかったのは子どもだけではないと思う。親子、学生、家づくりする前に家族で・・・などこのような形で部屋

を考える機会があるとよいと思います。

- ・ 「ケーキ箱のお部屋づくり」を通じて、子どもたちのインスピレーションに驚かされた。自分なら、アレコレ色々なことを考えながら作る。少し考え過ぎなのかもしてないと気づかされ、とても良い経験になった。
- ・ 「ケーキ箱の部屋」を何回か実施してみて気になるのは子どもたちにとって材料の接着しづらく家具の組み立ての難しさなどがネックになっていること両面テープ使いが低学年児童にはむつかしいこと。何を学ばせるかに焦点をしぼり、意匠性に焦点を置くのであれば家具などは容易に組み立てたりできるものかあらかじめフォルムの出来上がったものを使うことでデザインに集中できる時間が増えると思う。また、高学年や大人であればもう少し正確なサイズ感が必要ではないかと思う、200分の1サイズで作れば実際に実現できるレイアウトなど具体的に参考になるかもしれない。
- ・ ケーキ箱のお部屋づくりなど、インテリアのワークショップをする際には、コーディネーターが、色使いなどちょっとしてコツを教えながらやるほうが良いと思う。

(考察)

材料や、体験内容をしぼるなどの改善点に対してご指摘をいただいた。KIWI labo.としても以前からの懸案事項であり、少しずつ修正を加えてきてはいるが、今後の課題として持ち続けていたい。また、今後各団体で実施されるときには、独自の工夫を加えて頂き、それをまたフィードバックしてもらえれば、全体的に講座のレベルがあがっていくと考える。

【子どもへのアンケート】

大分県 IC 協会では、参加した子どもにもアンケートを実施することができた。

自由記述で講座に対する感想を書いてもらった。(アンケート回収数 20)

回答抜粋 (一部文章を修正した)

- ・ 夜の海がテーマで、夜空の星がきれいでテーマにあったかわいい家ができて良かった。ある時はいつでも
行きたいです (小3 女子)
- ・ インテリアコーディネーターの仕事はどんなのかなと思ったけど、しょうらのゆめはインテリアコーデ
イナーの仕事にしたいと思いました (小3 女子)
- ・ 初めて参加したけど楽しかったです。発見したことは、かわいく作れるという事です。また参加したいで
す。(小4 女子)
- ・ ハンモックを作れてうれしかったです。いえにあったらいいなあと思いました (親の代筆、学年・性別不
明)
- ・ たのしかったです。がんばりました。またしたいです。じょうずにできたのでうれしかったです。切るの
がむずかしかったです (学年、性別不明)
- ・ 自分の部屋ができてたのしかったです (小3 女子)
- ・ 壁をつくるのが楽しかった。また来てみたいです (小3 女子)
- ・ 壁紙を決めたりするのがたのしかったです。壁紙を貼るのがむずかしかったです (小3)
- ・ くふうしながらつくるのがとてもむずかしく、かんせいした時はとてもうれしかったです、来年もしてほ
しいです (小4 男子)

- ・ **自分の部屋を自由にデザインできてたのしかったです。難しいところもあったけど、無事完成できてよかったです** (小4)
- ・ たのしかったです (小1)
- ・ 去年も参加していて今年は海をテーマにしました。うまくできてよかったです! (小6女子)
- ・ うちゅうをイメージしてつくったよ。いろんなことができてたのしかったですよ。**こんなおへやにすんでみた**
いな (親の代筆、小1男子)
- ・ 草を入れてそのあと貝がらやふわふわを入れたところがむずかしかった (小3女子)
- ・ しっぱいしたと思ったけど、はちがみ(?)でつけたのでよかったです (小2女子)
- ・ とてもかわいくできてよかったです。ソファァーがむずかしかったです。**自分で部屋をつくれてうれしかったです**。(小6)
- ・ 窓をぬるところがむずかしかったです (小2)
- ・ 3回目のより、あたらしいのができました (小3) (注・この子は2度目の参加)
- ・ たのしかった、もっとやりたかった (学年、性別不明)

(考察)

「自分の気に入る部屋ができて良かった」

「作る過程が楽しかった」

「難しかったけど楽しかった」

といった内容の回答が目立った。

ワークショップを通じて、達成感や新たな発見など、いろんな経験をしてくれたと思う。インテリアコーディネーターの仕事に興味を持ってくれる子どももいた。



●大分県 IC 協会では毎年各種メディア取材を受けている ●はじめにレクチャー



●クロスや生地を見ながらイメージづくりテレビ取材

●誇らしげに答えるこどもたち



●記念写真



●ジュニア IC 認定証授与

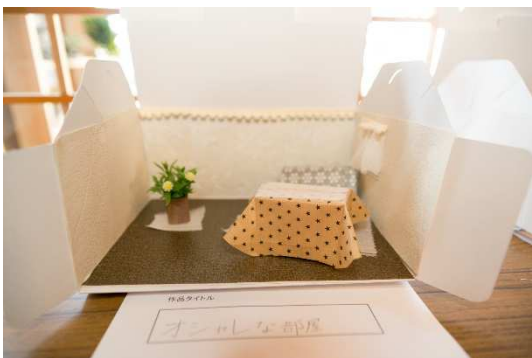
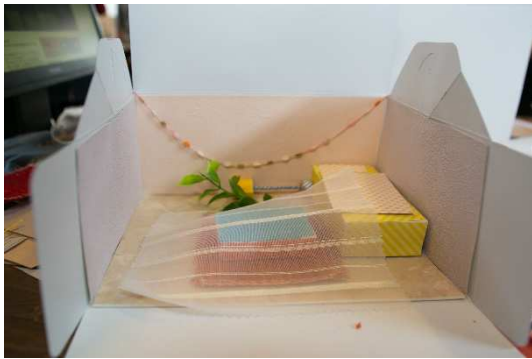
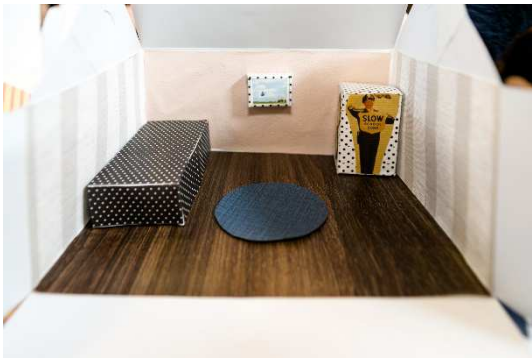
3 - 2 . KIWilabo.開催のワークショップの取り組み

(1) 2017 年 3 月 「ケーキ箱のお部屋づくり」 兵庫県豊岡市里やま工房様展示場

数年ぶりに、KIWilabo.が講師となり開催したケーキ箱のお部屋づくり講座。住宅メーカーのモデルハウスをお借りして開催し、参加した子どもは 20 名。

水田がインテリアコーディネーターと模型作りについてのレクチャーを行い、他のメンバーで、子どもたちの製作をサポートした。





(2) 2017 年 10 月 「ケーキ箱のお部屋づくり」 兵庫県豊岡市「三原谷の川の風まつり」

豊岡で開催された企画イベントにお招きいただいた。4月に開催し好評であったため、呼んでいただけたものです。

今回は、来られた方から順に思い思いにはじめてもらう形式をとったが、教える側が子ども一人一人に説明をしなくてはならなかった。ケーキ箱の特性上、やはり一度にレクチャーを行うスタイルの方が合っていると思われたが、それでも、参加する子どもたちが、材料をひとつずつ大切に選び、これがいいかなとか、あっちにしようかなと悩みながらセレクトしていく様子は、KIWIlabo.として喜ばしい瞬間である。子どもたちはいつも真剣だ。







(3) 2017 年 12 月 「ケーキ箱のお部屋づくり」 徳島インテリアコーディネーター協会

徳島 IC 協会へは、KIWIlabo.からアプローチして開催をお願いした。開催できるかどうか、集客できるかどうか、子どもたちがどのような取り組み方を見せるのか、開催前からかなりいろいろとご心配されていた。実際に開催してみると、子どもの力は本当に強く、なんの心配もなく大丈夫だったということを実感していただくことができた。レクチャーの内容も、難しいことなど一切話さず、自分の家になにがあるかを思い浮かべたり、持ってきている材料について簡単な説明をしたりするだけでも十分力を発揮してくれるということを実感した。







(4) 子ども対象のワークショップでの保護者アンケートより

保護者アンケートは、75名分回収した。子どもの参加者総数は、119名であった。

【アンケート内容】

1. ケーキ箱インテリア講座に参加しようと思ったきっかけを教えてください。
2. ケーキ箱インテリア講座に参加することで、期待していたことはどんなことが教えてください。
3. お子様作ったケーキ箱のお部屋を見て、どう思いましたか？
4. ケーキ箱インテリア講座を受講してみたの感想を教えてください。
5. お子様がつけている様子は、いかがでしたか？
6. 参加する前と後で、インテリアに対する考え方に変化がありましたか？

【アンケート回答抜粋】

自由回答の中からキーワードを拾い出してカウントした。

2. ケーキ箱インテリア講座に参加することで、期待していたことはどんなことが教えてください。

(有効キーワード出現数 75) 以下、カッコ内はそのキーワードの出現数とパーセンテージ。

発想、想像力、独創性を養ってほしい	14	19%
作る経験をさせたい	10	13%
親子で楽しい時間を過ごしたい	10	13%
インテリアに興味があるので	7	9%
本物の素材に触れさせたい	6	8%

工作が好きなので	4	5%
片づけができるようになってほしい	3	4%
思い出作り	3	4%
学校の宿題として提出	3	4%
色の組み合わせなどを学ばせたい	2	3%
自分の部屋を大切にしてほしいので	1	1%

* 少数意見として

「自分の力でどこまでできるかを見たい」「作る過程を学ばせたい」、「去年からどれくらい成長しているかを見たい」(各1)など、親の教育的関心に拠る意見も見られた。また、過去に体験した人(前年度にこの会場の近隣のイベントでケーキ箱インテリアを開催した)や、ドールハウスが趣味という子どもの中には増築したい」という声もあった。

3. お子様で作ったケーキ箱のお部屋を見て、どう思いましたか？

(有効キーワード出現数46) 上記と同様、カッコ内はキーワード出現数とパーセンテージ。

個性的である、独創性がある	12	17%
思ったより大人っぽいなど、意外性がある	7	15%
性格が出ていると思った	5	11%
自分でデザインを考えたのがよかった	4	9%
ユニーク、斬新	3	7%
思った以上の部屋ができた	3	7%
こんなことを考えていたんだと知った	2	4%
思いがぶれずにこだわっていた	2	4%
思いを表現できている	2	4%
アイデアがすぐに浮かんでいた	1	2%
将来の家づくりについて話し合えた	1	2%
こんな部屋に住んでみたい	1	2%

(考察)

出来上がった作品について、個性的であったり、意外であったりと、多少の驚きを持って受け止める保護者が多い。子どもの自由な発想に刺激を受けた大人が多いようである。また、子どもの思いやアイデアを尊重する姿勢が見受けられる。興味深い

4 . ケーキ箱インテリア講座を受講してみたの感想を教えてください。

(有効キーワード出現数 76)

楽しかった	24	32%
子どもが集中していた	6	8%
講座のクオリティが高い	6	8%
良い経験になった	5	7%
子どもに感心した	5	7%
夢中になっていた	3	4%
時間が足りない	3	4%
楽しそう、一生懸命、おもしろい	3	4%
難しかった	2	3%
普段子どもに手を出し過ぎていると反省した	1	1%
自分の部屋もきれいにしてくれると期待している	1	1%
自分らしさが分かった	1	1%
ゆっくり子どもと向き合えた	1	1%
親もやりたい	1	1%
もう少し大きくなってから、またやらせたい	1	1%
他の人の作品を見て興味深く思った	1	1%
親は付添不要	1	1%
講座の運営が良かった	1	1%

(考察)

楽しかったという意見が大半。これは親の意見なので、子どもが作っている様子を横で見守ったり、話し合ったりするのが楽しかったということであろう。それに次ぐ感想としては、子どもが熱心に作る様子に感心したという声が多い。また、講座のクオリティ(本物の材料を使っていることや、プロのコーディネーターのアドバイスなど)が高いとの声もあった。

6. 参加する前と後で、インテリアに対する考え方に変化がありましたか？

(有効キーワード出現数40) 以下は上に同じ

色使いを試してみたい、組み合わせが大切	7	17%
壁紙や生地にはいろんなものがあるというのがわかった	5	12%
模様替えをしてみたい	4	10%
表現によって素晴らしいものができることが分かった	3	7%
子どもに選ばせたい	3	7%
堅苦しく考えなくて良い、いろんなことができるのだと知った	3	7%
前もってイメージを持っておくことが大事	2	5%
色んなものを見た方が良いと思った	1	2%
センスが大事	1	2%
選べる楽しさがあると知った	1	2%
全体のバランスが大事と知った	1	2%
家具を変えることでインテリアが変わることが分かった	1	2%
自宅はこだわっていないなと思った	1	2%
挑戦してみようと思った	1	2%
インテリアを勉強したい	1	2%
インテリアは大事だと思った	1	2%
夢を実現したい思いが強くなった	1	2%

今後興味がわくかも	1	2%
-----------	---	----

(考察)

この回答を見ると、参加する前と後で、インテリアに対する保護者の意識がかなり変わっていることが分かる。

この講座に参加する前は、インテリアに対する知識がないばかりに、無難な部屋に住むしか選択肢がないと思っていたのが、講座に参加することで、壁紙や生地には様々なものがあるという事が分かり、それをどう組み合わせるかが大切で、そのためにはいろんなものを見てセンスを磨いたり、堅苦しく考えずに自由に選んでいいのだという事を感じてもらえたようである。

インテリアに対する固定概念を持つ前の子どもがこういった体験をすることで、住空間への関心を持ち、主体的な関わりをしようとする姿勢が生まれるのではないかと。



3月29日(WED) 13:00~17:30 場所:里やま工房 モデルルーム
兵庫県豊岡市加広町3-35

第一部 13:00~15:30

ケーキBOXインテリア♪

講師 KIWI labo. 演奏 河本智子

材料費 ひとり 500円

ケーキBOXを部屋に見立てて
自分の好きなインテリアをコーディネート
本物のカーテン、壁紙のサンプルを使います♪

第二部 16:30~17:30

香りと映像のコンチェルト♪

香り 財津園美 映像 藤原次郎 演奏 河本智子

参加費 ひと組1500円

森・水・春 をテーマに
映像とアロマの香りとエレクトーンの音色が
織りなす幻想的なハーモニー♪



家族と暮らしを考える KIWI labo.
インテリアコーディネーターの5人ユニット
衣食住・五感をテーマに研究活動を行う。
キッチン研究、ワークライフバランス調査研究等
全国に広がる人気コンテンツとなった今回開催の
ケーキ箱を利用したインテリアワークショップを考案。



Chant de Gâteaux エレクトーン 河本智子
「あなたと一緒においしいお菓子を！」をキャッチフ
レーズに、お菓子教室Chant de Gâteaux を主催。
その傍ら、オルガンプレイヤーとしても活躍。
昨年、夫の故郷豊岡に移転して、
お菓子と音楽のお店の開店準備中です。



かわいい
アイシングクッキーの
販売も♡



アロマデザイナー 財津 園美
(公社)日本アロマ環境協会認定
アロマセラピーインストラクター
JAMI-IA認定ハーバルセラピスト
ラッピングインストラクター
香司

アロマ販売もおたのしみ♪



映像作家 藤原次郎
1955年 兵庫県和田山町 生まれ
兵庫県立生野高等学校
大阪芸術大学映像計画学科卒業
「木の殿堂」
「城崎スケッチ」
「豊岡絵巻」等を制作

但馬の街を撮影中♪



※第1部500円 第2部1500円 通してご参加の方は1800円 要予約 先着 各20組 3歳以下は無料 お申込みは里やま工房へ



【FAX 申込み書】 FAX:0796-26-6645
(ご記入の上 FAX送信してください)

○をしてください ♡第1部のみ ♡第2部のみ ♡通して参加

※複数名ご参加の場合は全員のお名前をお書き下さい。

氏名		
TEL		参加人数

お問い合わせ先:キウィ ラボ 瀬口 kiwi_labo@hotmail.com

・ 徳島 IC 協会チラシ

インテリアコーディネーターと
一緒につくろう！

ケーキ箱の お部屋づくり

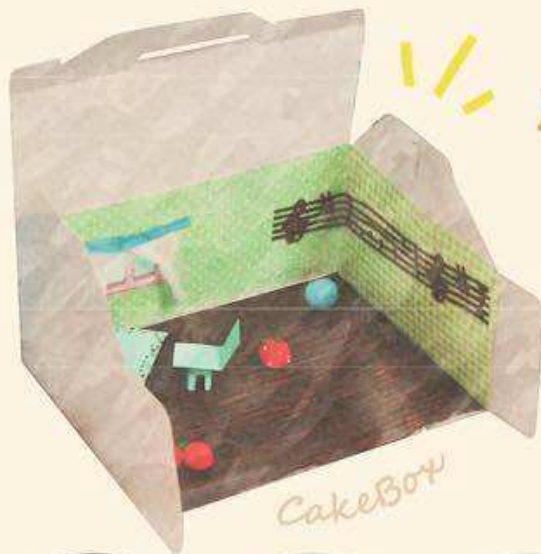
子どもワークショップのご案内

ケーキ箱の中に、自分のお部屋をデザインしていきましょう。
壁紙やカーテン生地を使ってインテリアをコーディネートします。
家具やインテリア小物は、親子で協力しながらつくります。

2017
12/3
⑧

参加費
無料

先着 20組



- 時間 ▶ 13:30～15:30(受付 13:00～)
対象 ▶ 小学生 保護者同伴でお願いします
場所 ▶ TOTO株式会社
徳島ショールーム 駐車場有
講師 ▶ KIWI labo.
家族と暮らしと住まいを考える研究グループ

参加受付〆切…11月28日(火)

▶▶▶ 詳細は裏面をご覧ください



こんなにカワイイ★お部屋が作れちゃいます

※写真はイメージです。










【お問合せ・お申込み】徳島インテリアコーディネーター協会事務局 tokushima_ica@yahoo.co.jp FAX : 0884-23-2903

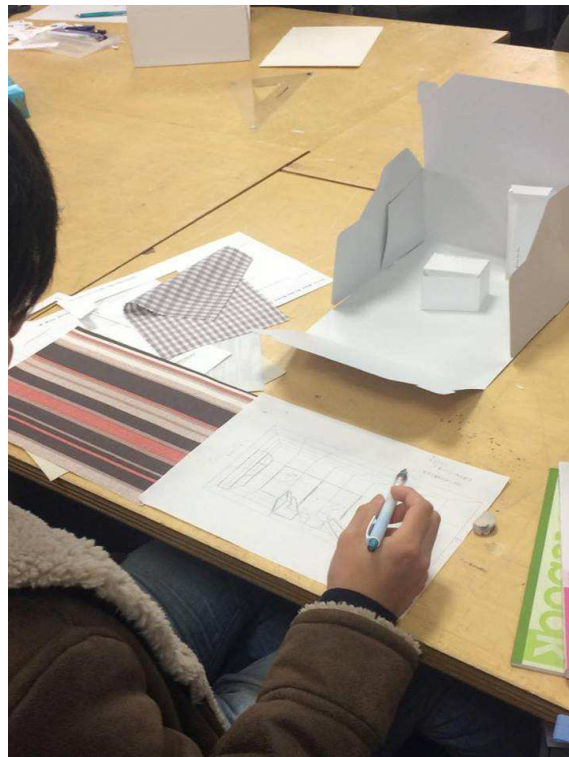
3 - 3 . 愛知淑徳大学での取り組み

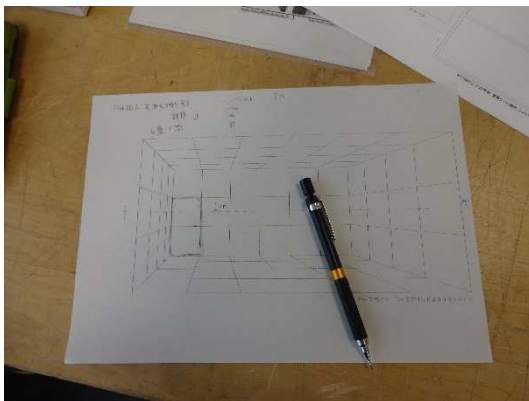
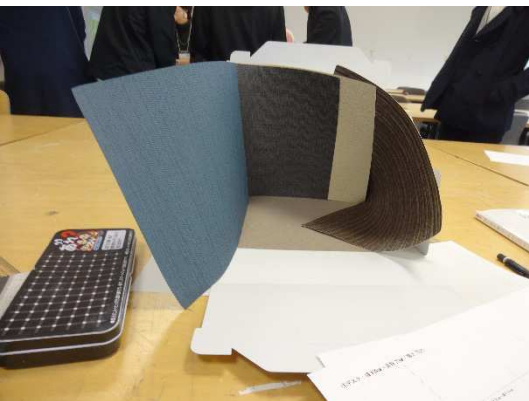
2017年11月、愛知淑徳大学創造表現部インテリア設計科、都市環境デザイン演習において、出前講座をさせていただきます。松本佳津教授の担当される授業で、2週に渡り開催。大学生に対する授業の一環であるということで、作る作品のテーマを「外国人をもてなすインテリア」と設定した。

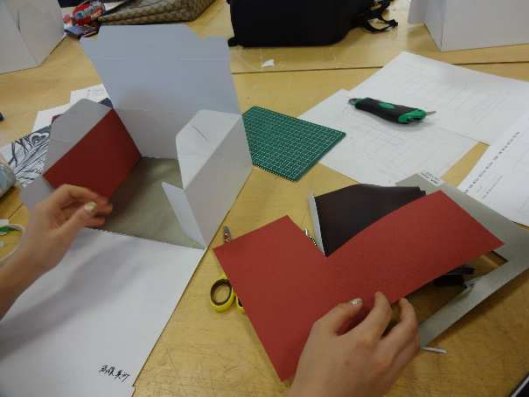
一週目は、コンセプトをまとめて、材料を選び、全体の構成を考えてもらった。2週目は、前回の続きで制作し、できた作品をプレゼンテーション発表してもらった。

(1) 1回目の様子

授業名		インテリア設計	
No.	name:	2017	
9		month&day:	11/28.12/5
今回の予定	SPECIAL 講義		
■ケーキ箱のお部屋づくり	KIWI labo.	インテリア産業協会研究助成事業	
ケーキ箱を部屋に見立て、家具を作り 本物の壁紙や布を使ってインテリアコーディネート体験 ケーキ箱は6畳程度			
もってくるもの はさみ、カッター、カッター台 インテリア関連雑誌等 参考書籍資料			
11月28日	概要説明 計画		
	製作		
12月5日	製作		
	発表		
KIWI labo.プロフィール		2002年3月設立 目的:こどものためのインテリア研究 活動内容:実践と暮らしのインテリアに関する研究	
			
			
			
研究棟 room no.615	kazumatsu@suu.asas.ac.jp	kaz matsumoto	







(2) 2 回目の様子



(3) ワークショップ体験後アンケート回答抜粋

【アンケート項目】

1. インテリアの力、重要性について感じていること
2. ワークショップの際に考えたテーマ、コンセプト、ワークショップをどのようにとらえて挑んだか
3. ワークショップは、インテリアを学ぶにあたってどのような効果がある(またはない)と感じたか
4. 子ども(小学生)がワークショップを体験した場合、インテリアや暮らしの楽しみを見出すために効果がある(またはない)と感じたか
5. ご自身がワークショップの指導者となった場合をイメージして、何を重視して指導したいか

●アンケートの分析は、設問 1、3、5 に対して行った。

設問 1 . インテリアの力や重要性について感じていること

- ・ 生きていくためには必要な場所だし、色や柄、配置によっては感じられることが違うので、自分に合ったインテリアにすることで自分の居場所が出来る。
- ・ 気分を高めてくれる物だと思います。新しいインテリアがあるだけで家に帰るのが楽しくなります。
- ・ インテリアは生きていく上で欠かせないものだし、インテリアで人の心を動かすことができると思う。
- ・ インテリアは人の健康状態に関わってくるのでとても重要だと思う、
- ・ インテリアによって、その日の気持ちが左右されると思うのでその人の人生が変わると考えます。

- ・ 人の心を動かしたり、精神的にも身体的にも良い影響を与える力がある。
- ・ 生活する上で欠かせない物であり、文化や伝統を表現する物だと感じています。
- ・ 心理学と近い物を感じています、住む人や使用する人の心に寄り添うことが大切だと思います。
- ・ 世界中の人と人を結びつけるための一つの手段。しかし、人間と動物を遮るものでもある。

(考察)

生きる上で必要、欠かせない、気分を高める、心を動かす、健康を左右する、人生を変える力がある、など、

日ごろからインテリアを学んでいる学生はインテリアの持つ力を大きなものと感じていることが分かる。

設問 3 . ワークショップは、インテリアを学ぶにあたってどのような効果がある (またはない) と感じたか

(回収数 65、カッコ内はその回答数とパーセンテージ。似た回答はまとめて記載)

立体物を実際に作ることで、平面よりもイメージがしやすい	29	45%
楽しい	6	9%
お互いのアイデアを見ることができる	4	6%
テーマがあることで仕事に生かせる	4	6%
発想力を養える	3	5%
色使いの工夫などが学べる	2	3%
アイデアを形にできる	2	3%
作ることで実現の難しさが分かる	2	3%

その他、「自由な選択ができる」、「インテリアが好きになれる」、「自分の内面や考えに気づく」、「スケール感やサイズ感が分かりやすい」、「実践的である」などの回答があった。

(考察)

圧倒的に、「実際に作ることの効果」を感じている人が多かった。

普段の授業では、学生たちは自分のイメージをスケッチやパースなど、2次元で表現していることが多いが、ケーキ箱インテリアのように立体で表現することで、様々な効果があるようである、例えば、より空間のイメージがしやすくなる、スケール感を実感できる、実現不可能なプランであったと気づく、など。建築士が、建

築模型を作って検証することに近い効果があると思われる。

より幼い子どもや小中学生にとっては、絵で表現するよりも立体の方がストレートに自分のイメージを形にでき、簡単に感じるのではないだろうか。

設問5 . ご自身がワークショップの指導者となった場合をイメージして、何を重視して指導したいか

(有効キーワード出現数 69)

自分のこだわりや表現したいことを重視するように指導する	13	19%
テーマを決めて取り組むこと	11	16%
型にとらわれず、自由に発想すること	11	16%
住む人にとって、住みやすい空間になるように	10	14%
教える側の指導力が大事と思う	5	7%
色の組み合わせ	3	4%
配置	3	4%
周りとの協力関係	1	1%
自慢できるポイントを作ること	1	1%

(考察)

「自分のこだわりを重視させる」という意見と、「住む人の立場にたってデザインさせる」という意見が一定数で分かれたことが興味深い。前者はインテリアデザイナー的、後者はコーディネーター的立場と言えるだろう。またテーマを決めさせる、自由に発想させるなどの意見も多くみられた。具体的な配置やカラーコーディネ

ネットのテクニックよりも、どういったテーマで、どんな立場で、どんな発想を形にするかを重視しているようである。

子どもに講座を体験してもらう際には、理論的なテクニックよりも、まずは楽しさや主体性をもって取り組んでもらうことが大事と考えられるが、学生たちはこの点を（無意識に）理解してくれているのだと思われる。

(5) 担当教員・松本佳津教授からのアンケート回答

1 . 学校教育現場への普及について

こどものうちから、インテリア、住まいに関心を高めるために、インテリアワークショップを学校現場に普及したいと考えていますが、学校教育現場に取り入れることは意義があると思いますか。

意義がある あまり意義はない

2 . ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を学校教育現場に取り入れた場合、どのような意義があると思いますか。

住まいを立体的に体感できる

建築におけるインテリアの重要性を理解できる

具体的に影響し合う状況が理解できる

住まいに対する多彩なアイデアを出すことができる

3 .他に子ども向けのインテリアについてのワークショップやイベントを行っていることがあれば具体的にお書きください。

大人向け ガールズリノベ塾

大人向け 超高齢社会のインテリア塾 開講準備中

4 .ワークショップ「ケーキ箱のお部屋づくり」を通して、インテリア、住まいの関心は高まると思いますか。

とても高まる あまり高まらない

その理由をお書きください。

とっかかりが容易で、短時間に空間のあり方を理解できる

5 . その他ご意見等ございましたらお書きください。

大変興味深いプロジェクトで学生にも大好評でした。各自のスキルに合わせ、いかようにでもできるところは本当に面白く、ぜひ普段の授業にも取り入れたいと思いました。

どうしても二次元、また模型製作になると外観重視になりがちでインテリア的な学習にはそぐわない面もありましたが、これは箱があるので手軽、かつ容易でインテリアの核心を体感できるものだと思います。

(考察)

インテリアコーディネーターとして大変実績のある松本教授から、高い評価を頂けたことは、わたしたちにとっても大きな励みとなった。このワークショップが、インテリア学習に適したものであるということが実感できた。これまでありそうでなかった、インテリア学習の教材であるという事が再認識できた。

3 - 4 . ジャパンテックスでのPR活動について

企画ブース「くらしぼっこ」にてトーク出演とミニレクチャーを実施。

FB や交流会などでつながった全国のICさんから、会場にてお声かけいただいたり、関心を寄せられた。

今回実際に取り入れていただいた徳島IC協会さんも、会場にて紹介いただき、関心があったために、すんなりご協力いただくことができた。



第4章 研究報告会

4 - 1 . 研究報告会でのディスカッション内容及びアンケートについてのまとめ

全てのワークショップが終了し、アンケートがまとまった4月4日(水)、今回の研究について報告会を行った。

内容は

- ・ 本研究の主旨と結果、今後の展望についてを報告
- ・ 参加者に、ケーキ箱ワークショップの体験をしてもらう
- ・ 参加者によるディスカッション

であった。

参加者は、IC 7名、インテリア産業協会事務局 1名、大阪市住まい情報センターより2名、撮影、取材 2名、KIWI labo.メンバー5名であった。

【ディスカッション結果】

研究報告を聞いた上で、またケーキ箱ワークショップを体験した上での感想や提案など、活発な意見が出された。

主な内容を分類すると、

① ワークショップの内容に対する感想

集中できる、面白い、イメージがどんどん広がる、情操教育になる など

② ワークショップの進め方に対する感想

時間が足りない、型紙に説明を入れてはどうか、初めにレクチャーをしてはどうか、レクチャーはしない方が自由に作れるかもしれない など

③ 子どもに対する効果についての言及

子どもの頃に部屋をどうしようかと考える機会ができる、立体でコーディネートできるので、言葉で表現できないようなことを表現しやすい、片づけなさい、だけではない情操部分を伸ばすことが大切だと感じた。など

④ 子ども以外への応用

若い人は、一人暮らしを始めたり、結婚したりするときに、インテリアに対する知識や経験がほとんどない状態で部屋作りをしないといけない。そんな人にこのワークショップをしてもらおうとよい。高齢者にも楽しんでもらえると思う。高校の家庭科の教科書には、賃貸物件の選び方や敷金についてなどが書かれていたが、(学校教育に取り入れられれば)もう一步踏み込んで、暮らしやすさ、住みやすさについて考えるきっかけになると思う。

⑤ 業界への波及効果についての言及

子どもに体験してもらい興味を持ってもらうことで、インテリア業界の人手不足(IC,職人共に高齢化し、若い人が育っていない)という問題への解決策になりえる

⑥ 講座としての広がりについて

プロ(IC)に向けて、このワークショップのインストラクター養成なども考えても良いのでは。

このワークショップをすると、色々気づくことがある(例えば収納について、照明、家具はどうしよう、など)、これを入りに、より具体的なセミナーにつなげていくこともできる など

非常に広範囲で、しかも濃密な内容の意見をたくさん頂くことができた。

【アンケート結果について】

自由記述で書かれていた意見(ディスカッションでは出ていなかったもの)

- ・ いろんな素材に触れることができ、インテリアへの関心が高まる
- ・ インテリアを考える楽しさを体験できる
- ・ 住まいに関心を持つきっかけになる
- ・ 完成され、与えられた住まいだけではないということ、自分の好みを反映できることに気づいてもらえる
と思う
- ・ PTA の行事としてお母さんに体験してもらってはどうか

学校教育現場への普及について意義があるか、ないかとの設問には、意義があるという回答が 100%。

ワークショップを通して、インテリアや住まいへの関心が高まると思うかとの設問においても、とても高まるという回答が 100%であった。

私たちにとって、多くの新たな気づきと視点を得ることができ、非常に有意義な報告会になったと思う。

多忙な中を参加して下さった皆さんに、改めてお礼を申し上げたい。

4 - 2 . 全国の IC 協会に浸透するための手法についての整理

既に考察した通り、今後はこのワークショップのマニュアルをまとめていきたい。子どもだけでなく、大人や高齢者にも応用できるというご意見を頂いたので、今後は様々な対象に向けて広げていけたらと考えているが、参加者の年齢層によって、初めの導入部分で話すことや、注意点などが変わってくる。開催者の誘導によってイメージの広がり方が変わったり、初めの戸惑いが軽減されたりすることが分かっているため、その部分を充実させたマニュアルが必要と感じている。また、箱や型紙をキットにして、実施を容易に、また参加者の負担を減らし、短時間で開催できるようにしたい。

それに加えて、報告会で頂いたご意見より、今後は具体的な実施の方法をレクチャーする機会を作ることも考えている。養成講座を経てのインストラクター認定をしてはどうか、などのご提案もいただいたが、どのような形にするのかがいいかは、今後の課題として考えていきたい。

4 - 3 . 学校教育への普及についての整理

まずは実施へのハードルを下げることに。

1 - 1 - (2) で述べたように、家庭科の教員は住分野に対する苦手意識が高いため、マニュアル化とキット化には一定の効果があると思われる。また、そのキットを持って IC が出前授業に出向くことも容易になる。

また、大阪市住まい情報センターなど、住教育に取り組む住関係の公的機関との連携を強めていきたい。

それによって、学校現場での実施を広めていけるのではないかと考えている。

4 - 4 . まとめ

IC としてご活躍の方々や、住まいについての仕事をされている方々の参加により、たくさんの共感を得ることができた。

IC の高齢化、若い IC が生まれない、育たないなどの危機感を覚えるという意見もあり、住まい育(※)の重要性をあらためて認識させられた。

(※)「住育」を一般の方にもより分かりやすく表現するため、KIWI kabo.では「住まい育」という言葉を使っている。





第5章 本研究の概要と今後

こどもの生きる力や喜び、暮らしを楽しむこと、心を育てることに、住まいは非常に重要な役割を担っており、住環境をよりよく整えたい、楽しみたいという次世代を育てることは、住まいづくりを考えるその親世代の関心もたかめることができると思う。そのことは、これからのインテリア、建築、住分野の産業発展にもつながるものと思う。それは、また、ぐるりと巡って、人々の暮らしをさらに豊かにするものとなるだろう。

そんな好循環を生み出す源泉こそが「住まい育」なのではないだろうか。

研究を通して得たこの確信をもって、教育現場への普及にむけては、ゆるがない信念をもって挑むことができるのではないかと感じている。

今後の活動方針としてはまず、全国 IC の協力を得ること。本研究の報告会を各地で開催し賛同者を広げていきたい。

そのために、キットの作成（縮尺のあったケーキ箱の製作、作りやすい家具の工夫）、マニュアル化（レクチャー内容、注意事項、アレンジ方法）などが課題として明確になってきた。

また、家庭科の授業で手薄になりがちな住分野を、IC が外部講師として担っていくために、インストラクターを養成し、キットを使って出前授業を全国各地で開催できるようにすることが、教育現場への普及への近道だと考える。

このケーキ箱ワークショップがたくさんの教室で開催されること、そして、子どもたちの笑顔や、達成感に満ちた顔、誇らしげに自分の作品について語る姿が各地で見られることを願っている。それが未来の住空間の充実、生活者一人一人の生活の満足度向上につながり、住産業の発展にもつながっていくと、わたしたちは確信している。